

1 . 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503916		
法人名	医療法人社団 鈴木内科医院		
事業所名	グループホームきよた		
所在地	札幌市清田区清田 4 条 2 丁目10 - 27 (電 話) 011-882-2347		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地		
訪問調査日	平成19年7月18日	評価確定日	平成19年8月7日

【情報提供票より】(1 9 年 4 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 1 8 年 3 月 1 7 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算	15.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 ~ 26,000 円
敷 金	(有)(50,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (4 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護 1	4	要介護 2	5
要介護 3	1	要介護 4	7
要介護 5	1	要支援 2	0
年齢	平均 83.9 歳	最低 66 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌しらかば台病院・玄蕃歯科クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、地域に根ざした医療を実践してきた内科医院が平成 1 8 年に開設し、認知症高齢者および家族への支援に努めている。「ここが私たちの家です」という理念の基、利用者が “ 自分の家 ” として暮らせるよう全職員が一体となり、ケアサービスを提供している。町内会や近隣小学校との関係も良好で、今後、地域との交流がより一層深まることが期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目 : 外部4)
	外部評価は今回が初めてであるが、開設当初から自己評価に取り組んでおり、ケアの質の向上に繋げている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 : 外部4)
重点項目	全職員で自己評価に取り組み、サービスの向上に努めている。また、全職員が調査に対して非常に協力的である。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 : 外部4 , 5 , 6)
重点項目	利用者家族・地域の代表者・地域包括支援センターの職員が運営推進会議の構成員となっており、会議において活発な意見交換を行い、そこで出た意見を運営に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目 : 外部7 , 8)
重点項目	写真を掲載した事業所便りを毎月家族に送付しており、利用者の近況を報告している。家族が来訪した際は職員は積極的に声かけをし、意見・要望を聞いている。また、家族からの意見・要望はすぐに会議で検討し、改善に取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携 (関連項目 : 外部3)
重点項目	母体法人である内科医院が 2 5 年前から地域医療に取り組んでいるため、地域との関係が良好である。また、町内会や老人会の行事に積極的に参加したり近隣小学校との交流を深めるなど、地域との密なる連携が取れている。

２． 評 価 結 果 （ 詳 細 ）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
．理念に基づく運営					
１．理念の共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が“自分の家”として事業所で暮らせるよう願いを込め、「ここが私たちの家です」という独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の会議や申し送り時に理念を確認している。また、職員は理念を念頭におきながら日々のケアを実践している。		
２．地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・老人会の行事に参加したり近隣小学校との交流を深めるなど、地域と密な連携が取れている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に繋げている。また、調査の際も職員は非常に協力的であった。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者家族・地域の代表者・地域包括支援センターの職員を構成員として活発な意見交換を行い、そこで出た意見を運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者と連絡を取っており、運営内容や方針などを報告している。	○	区の担当者が運営推進会議に参加する予定があり、今後更なる連携が取れる事を期待する。
4.理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、写真付きの事業所便りを家族に送付し、利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。また、金銭管理については、家族の来訪時に金銭出納帳を提示し、確認後サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者家族が多数参加しており、運営について話し合う機会を設けている。また、家族からの意見・要望は職員間で話し合い、ケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職時には交代期間を確保しており、新しい職員に慣れてもらうとともに利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じ て育成するための計画をたて、法人内外 の研修を受ける機会の確保や、働きなが らトレーニングしていくことを進めている	毎週内部研修を実施するとともに職員は月に 1度レポートを提出するなど、質の向上に取り 組んでいる。また、外部研修に参加する機 会も設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業 者と交流する機会を持ち、ネットワーク づくりや勉強会、相互訪問等の活動を通 じて、サービスの質を向上させていく取 組みをしている	清田区の事業所で交流会を開催したり他事業 所の職員との合同研修会を行うなど、同業者 と交流する機会を設け、共にサービスの質の 向上に取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービス を利用するために、サービスをいきなり 開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家 族等と相談しながら工夫している	職員が利用者宅を訪問したり、本人・家族に 事業所を見学してもらい、馴染みの関係を築 いてからの入居となるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場 におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽 を共にし、本人から学んだり、支えあう 関係を築いている	職員は人生の先輩として利用者から学ぶ姿勢 を大切にし、共に支え合う関係を築けるよう 日々努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は言葉だけではなく、表情からも利用者の思いを汲み取れるよう努めている。また、家族・関係者とも話し合いながら利用者本位の生活となるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントを活用し、本人・家族の意見や要望を盛り込んだ介護計画を作成している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化に応じて本人・家族の意向を確認し、会議で話し合いながら介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・外出の際に付き添ったり、家族へ宿泊先を提供するなど、柔軟な支援を実践している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設している診療所の看護師やかかりつけ医と連携を取っており、利用者の健康状態を把握して適切な医療の提供に努めている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人・家族と重度化や終末期の方針を話し合っている。また、利用者の身体状況の変化に応じて、かかりつけ医とも連携を取りながら家族の意向を踏まえた支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の尊厳を傷つけない言葉づかいや個人情報の取り扱いに留意し、徹底している。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物・散歩・畑仕事など、一人ひとりの体調と希望に沿った支援を実践している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力量に応じて、調理・盛り付け・後片付けなどを職員と一緒にしている。また、和やかな雰囲気の中で利用者と職員が共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の同意の下、体調を考慮しながら入浴日を決めて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩・家事・畑仕事など、利用者の生活歴や好みに応じた楽しみ事の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調を考慮し、一人ひとりの希望に合わせて外出する機会を設けており、事業所に閉じこもらないよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、職員が見守りを徹底しており、利用者が自由に外出できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年に2回、併設しているデイサービス・診療所と合同で避難訓練を行っている。また、消防署の協力の下、事業所のみでの避難訓練も実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事・水分摂取量を記録しており、職員は一人ひとりの健康状態を把握している。また、定期的に献立を管理栄養士に確認してもらい、アドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は日当たりが良く、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や仏壇などが持ち込まれている。また、時計やカレンダーが見やすく配置されており、本人が居心地良く過ごせる工夫がなされている。		

 は、重点項目。